

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「情報の扱いに関する事項」、算数では「図形」、理科では「エネルギー」、特に電気に関する分野の正解率が低い。また、3教科とも記述式の問題の正答率が低く、国語に関しては、全ての問題に無回答があり、意識調査からも国語や書くことに苦手意識をもつ児童がいることが伺われる。
- 意欲的に学習に取り組む児童が多いが、語彙力が乏しく、問題解決に向けて論理的に考えたり、相手にわかりやすく表現したり、自分の言葉で相手に説明したりする活動が苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 自力解決や定着させるための時間を十分に確保する必要がある。
- 学習の振り返りや読書活動の一言感想等、あらゆる場面を効果的に活用して自分の考えを短文で表現する経験を積み重ねることで、書くことへの抵抗をなくしていく必要がある。
- 問題解決的な学習を展開するために、児童の意欲を高める導入の仕方や、問題を解決する方法を考えられるような手立てを工夫する必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 読み解く力の育成
読み解く力(文章や図表等から読み取ったことを基にして、分かったこと、考えたことを相手に伝える力)の育成について、教科書の内容理解の指導を中心に進めていく。
- 個別最適な学びと協働的な学びの実現
児童一人ひとりの実態(特性や課題)に応じた学習活動を展開する。一人一台端末を活用し、児童が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるようにする。また、ICT機器を活用した学習活動や、学校ならではの協働的な学習活動を展開する。
- 基礎的・基本的学習内容の確実な定着
毎時間、導入時に既習事項である前時の振り返りと、自分の思いや考えを書き表し、人に伝える活動を取り入れる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○既習事項の定着を図るため、授業の導入時に前時を振り返る活動を行う。	○各授業において、INPUT→THINK→OUTPUTを授業スタンダードとし、児童が主体的にOUTPUTする場面を設定する。 ○各学年の発達段階に応じて、語彙を増やす活動や書くことへの抵抗をなくす取り組みを行う。	○教科横断的な指導計画を作成する。 ○学習の事前、または事後に振り返りを丁寧に行い、各教科と総合的な学習の時間とのつながりを児童が感じられるよう指導を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアのめざす子ども像「あきらめない子どもー自分のよさや可能性を認識し、自ら考えて取り組み、継続できる子どもー」に向けて児童・生徒の実態、課題等について協議し共通理解を深める。 ○9年間を見通した授業のつながりを深めるための視点を設定し、教科の特性に合った交流活動を実施する。	○生活科、総合的な学習の時間及び社会科等で、地域における豊富な教育資源を活用し、地域の新河岸工業会と連携して「人・もの・こと」に関する教科横断的な単元を構築して、探究的な学習活動を展開し、子どもたちが郷土を愛する心情を育み、地域のために主体的に取り組もうとする実践力を高める。	○探究的な学習において、一人一台端末を有効活用して情報を収集し、調べたり、調べたものをまとめたり発表したりする学習活動を行う。また、協働学習ソフト等を活用し、児童同士が学び合ったりする学習活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○デジタル百マス計算や英語のタイピングソフトを活用して、基礎学力の向上を図る。